

第2回生駒市総合計画審議会 第二部会

開催日時 平成30年7月24日（火）14時00分～15時45分

開催場所 生駒市役所 4階 大会議室

出席者

（委員）久部会長、中谷委員、楠下委員、中山委員

（事務局）坂谷秘書企画課長、岡村秘書企画課課長補佐、日高秘書企画課主幹、
片山秘書企画課員

欠席者 なし

1 開会

2 案件

（1）各小分野の検証（No.343・344・351・352・511・521・531・532・541）

（2）その他

3 閉会

以下、発言要旨

1 開会

【事務局】 ただ今から、第2回総合計画審議会 第二部会を開催いたします。

【事務局】 （資料確認）

2 案件

（1）各小分野の検証

No. 343 地域美化・環境衛生

【久部会長】 行政の進捗度も審議会の進捗度もBである。このままいって不法投棄回数は減るのか。

【事務局】 集積場でのごみの誤排出を自治会からの要望で回収した件数が多かったことから、昨年より若干増えている。

【久部会長】 平成28年も29年も多いためごみの出し方の周知徹底が必要である。

【楠下委員】 自治会では持っていくところがなく、自宅に引き取るしかなく困って

いるところもある。どのように徹底するか検討が必要である。

【中山委員】 近隣施設の利用者が捨てることがある。ごみハウスに鍵をつけると住民が使いにくくなるため、悩ましいところである。

【事務局】 名前を書いて出すようにしている地域もある。

【久部会長】 環境に関しては意識の高い人とそうでない人との開きが大きくなってきているため、次のステップは多くの人に意識をもってもらうことが重要である。「地域美化・環境衛生」はBでよいか。

【各委員】 (異議なし)

No. 344 上水道

【久部会長】 行政の進捗度も審議会の進捗度もBである。

【楠下委員】 最近各地域で水害が発生しており、水道のインフラ整備が極めて重要であることが実証されており、施設の保全がますます重要である。

【中山委員】 生駒市の水道管は新しいものになっているのか。

【事務局】 徐々に更新しているが、道路下や住宅地の中にある場合、莫大な費用がかかる。現在県水は南からと、真ん中の北部調整池からの2つのルートから入れている。山崎浄水場から小瀬中継所までの区間が老朽化しているが、住宅地の下で更新がかなり大変である。従来は山崎浄水場まで来て右下に戻っていたが、送水ルートを、県水からショートカットして、新小瀬中継所を作ってそこから水が来るように変更することを検討している。そうすることで設備老朽化に対する更新も不要になる。コスト抑制を考えながら「生駒市水道ビジョン」を進めているところである。

【中山委員】 この辺りは新興住宅地が増えているのか。そこは新しい管か。

【事務局】 増えている。新興住宅地には新しい管を入れる。

【久部会長】 ショートカットすると延長距離も短くなるため、コストも下がる。

【事務局】 県と市の費用負担も協議しながら進めている。

【久部会長】 県は「奈良モデル」という市町村を応援する取り組みを行なっている。

【中山委員】 これだけ晴天が続くと水不足が心配である。

【事務局】 半分以上県水から買っている。ダムの水かさが少なくなる心配はある。

【中山委員】 市民も水の使い方を考えなければならない。

- 【事務局】 節水の一方、水道事業は売らなければお金が入らず痛しかゆしである。
- 【中山委員】 災害に遭ってから分かることもある。
- 【久部会長】 奈良県は大和川しかないため、水に困っている。和歌山県の紀の川からもかなり原水をもたらっており、今回のように水不足になると厳しくなる。安定しており、努力しているということで、「上水道」はBでよいか。
- 【各委員】 (異議なし)

No. 351 自然的資源

- 【久部会長】 行政の進捗度も審議会の進捗度もBである。
- 【楠下委員】 指標を見ると緑化率は横ばいで、継続的に緑化活動の取り組みをしていることが分かる。樹林地バンク制度があるが、市内の貴重な樹林をどのように守るかが今後さらに大事になる。緑化率は下がる可能性もあるため、小さな緑でも大事に守る取り組みを継続してほしい。
- 【久部会長】 制度を作っても地権者の協力を得られないという課題があるため、理解向上を検討してほしい。保全活動者も高齢化していくため、若い人に触手を伸ばすことも重要である。
- 【中谷委員】 4～5年前にかなり発生したナラ枯れの木が立ったままだが、その処分はこの項目に該当するのかわ。ナラ枯れの木の処分が問題である。今まではナラ枯れの虫の防除や伐採の補助金があった。
- 【久部会長】 担当課にて検討をお願いします。
- 【中谷委員】 高山の池に入ってきた絶滅危惧種のカワバタモロコを保護しているが、どのように活用するのか。高山竹林園ため池で飼うという話もあった。
- 【事務局】 把握していない。
- 【久部会長】 岸和田丘陵地区でも環境モニタリングをしながら環境を守る話をしている。その中で大阪府立大学の生物の先生は「生態系を乱すため、簡単に魚を移さないほうがよい」と言っている。様々な人の意見を参考に活用を考えるべきである。「自然的資源」はBでよいか。
- 【各委員】 (異議なし)

№. 352 公園・緑化

【久部会長】 行政の進捗度も審議会の進捗度もBである。コミュニティパーク事業は応募件数が増えているため、もっと採択件数を増やしてほしい。

【事務局】 2年で1か所の予算としている。申請から時間がかかってしまうと現場との温度差解消が課題になる。

【久部会長】 申請書によいことを書いても、一部の役員で決めているとそうなる。公園緑化や花が好きの人が中心になっていれば、自治会長が交代しても影響はない。コミュニティパーク事業の第1号である光陽台中央公園は、花好きの人が10年以上うまく管理し、コンテストでも金賞を受賞し続けている。セントポーリア花の会は担い手が若いため、花のデザインが若く、花壇にクリスマスの飾りをしたり、5月には小さいこいのぼりを立てたりしている。コミュニティパーク事業をきっかけに、地域コミュニティのあり方を考えるまでになればよい。また、狭いところに街路樹を無理に植えたため、根が上がってきて歩道を傷めているところがある。

【中山委員】 アスファルトを突き抜けるほどなので、木の力はすごいと思う。

【楠下委員】 公園緑地は緊急用倉庫も点検し防災も含めた整備を考えたほうがよい。

【中山委員】 最近のかまどになるベンチもある。

【楠下委員】 ベンチの蓋を開けると火が焚ける防災かまどベンチを備えているところがある。公園が緊急時の場所としても活用できるよう、日頃からいろいろなコミュニケーションをとっておくとよい。

【中山委員】 公園も災害時は生駒市の水道なのでストップするのか。

【楠下委員】 タンクをもっておけばよいと思う。高山に井戸はあるのではないか。

【中山委員】 昔は獅子が丘は独自に地下水を吸い上げていたが、何年か前に生駒市の水道を引いてもらった。災害時用に井戸を整備できればよいと思う。

【久部会長】 阪神・淡路大震災のときも井戸をもっているところは強かった。

【事務局】 生駒市は現在、自己水の井戸水と県水を買ってブレンドしているが、県で広域化して原水を買ったほうが自己水より安くなるため、水道を広域化する話が出ている。そのため、現在吸い上げているところの見直しが必要になるかもしれない。

【久部会長】 水を涵養するためにも森を大切にしなければならない。

【中山委員】 そのためには、川を汚さないようにする必要がある。

【楠下委員】 あれだけ森があるからこそ、水も湧いてくる。

【久部会長】 「公園・緑化」はBでよいか。

【各委員】 (異議なし)

No. 511 学研都市

【久部会長】 行政の進捗度も審議会の進捗度もCである。ここは毎年評価に悩む。

【楠下委員】 指標は横ばいだが、毎年11月に生駒魅力アップを企画しているため、徐々に学研都市への関心が増えている。大学院大学との直接的な接触は難しく、オープンキャンパスくらいしか機会がない。講座を公開するなど、市民に触れる機会を増やすことが必要である。

【久部会長】 この項目は企業との協働も増やしてこそである。「みんなのサマーセミナー」では企業や大学院大学の先生や学生が講座をもつ。尼崎市の「みんなのサマーセミナー」は、地元の大学の他、他市の大学の学生も担当の先生に声を掛けられて参加している。今年は中学生も講座をもつ。そのような輪に企業にも入ってもらうのがよい。様々な機会をとらえて協働の仕掛けを増やせば、指標も上がる。うちの大学のオープンキャンパスでも企業連携に力を入れている。誰かにつないでもらえると、面白い展開ができる。

【楠下委員】 大学の研究はレベルが高いので分かりにくいだが、留学生などの外国人に現地の生活を市民に話してもらうような、肩の凝らない機会があればよい。国際交流のきっかけになるかもしれない。

【久部会長】 南の人は高山方面に行く用事がないため、仕掛けがあればよい。

【中山委員】 生駒から北生駒に来て、そこからバスに乗らなければならないことも行きにくい要因である。

【久部会長】 伸び悩んでいるということは、伸びしろがあり、工夫の余地がある。

【中谷委員】 市民に関心がないのだと思う。

【事務局】 中学校の出前講座は行っているが、それが広がらず、民間レベルの交流をなかなか作ることができない。

【楠下委員】 継続的な課題である。

【久部会長】 「学研都市」はCでよいか。

【各委員】 (異議なし)

No. 521 農業

【事務局】 (質問と回答説明)

【久部会長】 厳しいとは言え、専業農家が二十数件あり家計が成立している人もいるため、頑張り次第とも言える。他市では、リタイア後に農家になってもらうよう55歳からの営農塾を行っており、卒業生が数十件戻っている。農家の子どもがリタイア後に継ぐ、または兼業農業という形である。最近は農家に限らず、1つの仕事で家計を養う時代ではなくなり、200万円の仕事を3つもって合わせて600万円にするような働き方が出てきている。法律改正により賃貸でも農業を続ければ生産緑地に指定できるようになった。その辺りも考えたほうがよい。

【事務局】 レストランに卸しているところは1軒1軒と契約しているため、それほど数はないようである。

【久部会長】 他の人も一緒にやれば、どんどん出荷できるようになる。岸和田では「彩誉」というにんじんを開発している。糖度が13度なのでジュースとしても飲める。先導者のノウハウを皆でうまくシェアすればよい。

【事務局】 「ヒノヒカリ」は奈良県北部で平成22年から25年まで特Aを取り、県全体では7年連続で取っている。生駒産の米を特産品化できればよい。

【久部会長】 やる気のある人は、どのような条件でも頑張れ、やる気のない人ほど国や市の責任にする。どんな産業でもそれなりに頑張れるはずである。消費者にきちんと情報が流れるような工夫も必要である。

【中谷委員】 地産地消のものは消費者も買いやすい。

【中山委員】 生駒市は精米所が多く、よく「地元産の玄米あります」と貼っている。自分で精米したほうが新鮮で自分の好きな精米方法を選べる。

【中谷委員】 新規就農者が増えているのは嬉しい状況である。

【久部会長】 農業をしたい人が増えてきているため、生計が成り立つことを皆で考えていければよい。いこまの魅力創造課も関わっているため、ブランディングしてPRするのがよい。生駒産」で終わってしまいがちだが、頑張

っている人を表に出してあげることも重要である。

【中谷委員】 生産者の名前を出しているところもある。そのほうが買う方も安心で、作る側も張り合いがある。有機野菜が品不足と聞く。質のよいものを生産産として出すことに値打ちがあり、売れることにつながる。

【中山委員】 曲がった野菜を処分するのはもったいない。消費者も形を見て選ぶのではなく、曲がった野菜も買うようにしたほうがよい。

【久部会長】 以前、吹田市の産業振興の部局の女性職員が事業主を応援するグラフィック誌を発行したが、第1号が出た途端に「なぜあそこの店しか載せないのか」と言われ、広報の審議会を作ってそこで認めたものを掲載することで解決したと聞く。市役所が事業者を個人的に応援するのは難しいが、特定したアピールでなければ消費者に届かない。そこをどうクリアするかが課題である。

【事務局】 広報でも個人をクローズアップしたり、いこまの魅力創造課でも、フォーカスして行なうよう取り組んでいるところである。

【久部会長】 行政がやると公平性や平等性を言われるため、市民に任せるのがよい。

【中谷委員】 農地が不整形地なことも農業がしにくい要因であり、各農家が鳥獣被害の防備をしていないため、せっかく作ってもだめになる。中地区では、農協の駐車場で直売所を立ち上げて大にぎわいになっている。また、南地区では、農家の有志が毎週木曜に朝市をやっており、家庭で食べるくらいを作って余った分を販売している。そのような場所を行政が他の地区にも作れば、余剰野菜を販売できて小遣い稼ぎになる。各農家は規模の大きいものを求めているわけではない。

【久部会長】 本当にやる気のある農家はJAを飛ばして自分でやっている。場所づくりやコーディネートなどの機会提供がうまく農家にできれば突破口になり、初期投資もあまりかからない。「農業」はBでよいか。

【各委員】 (異議なし)

No. 531 企業立地

【久部会長】 行政の進捗度も審議会の進捗度もBである。

【中谷委員】 第1工区しか工場敷地が確保できないのに、なぜ企業立地をするのか。

国道163号バイパスの立ち退きも、行くところがないから計画が止まっている。他市に移転すると税収が落ちる。

【久部会長】 第6次では企業立地を残しているか。

【事務局】 小分野としては残していない。

【久部会長】 これからは工場誘致だけでなく、多様な企業立地を考えたほうがよい。

【中谷委員】 工場のほうが税収が多く継続性もあるため補助金を出してもやるということだと思うが、第1工区には規制があり、実際には立地しにくい。

【事務局】 市としては、準工業地域が固まっていることをメリットとして生かすよう、ここ何年間企業立地に取り組んできた。一定程度集積したが、今後国道163号のバイパスができ、第2工区の開発もあるため、企業立地の旗を降ろすつもりはない。

【久部会長】 先日のオープンキャンパスで高校生対象の地方創生の講義で、徳島県神山町の話をし、神山オフィスとしてサテライトオフィスを構えている株式会社プラットイーズのホームページを見てもらった。「従来は莫大な補助金を投資して工場を誘致し雇用を確保したが、神山町はそれを止めた。ただし、最初からIT系の人に来てもらいたいと思ったわけではなく、IT系の会社のニーズに合わせていったところ、IT系のサテライトオフィスの誘致につながった。面白い人が集まると、次は人が魅力になって面白いことが起こっていく。それがこれからの地域おこしではないか」という内容である。クリエイティブな人が集まる環境をどう作るかである。

【事務局】 どのような雰囲気ならクリエイティブな人が集まるかが難しい。

【久部会長】 クリエイティブな面白い人を引き付ける力がある人にコーディネーターになってもらうのがよい。「プラットイーズ 神山」で検索すると、「すぐに遊びに行ける」、「山の中で環境がよい」などまちの環境をアピールしており、地域での生活が具体的にイメージできる。学研都市は、クリエイティブな企業が集まって、さらにクリエイティブになっていくはずだったが、そうっていない。大企業の社員ではなく、中小企業の元気な社長、特にIT系のクリエイティブな人が集まらなければ、面白いことにならない。クリエイティブな人が田舎暮らしをするため、クリ

エイティブな人と接触する機会を多く作るのがよい。NPO法人グリーンバレーは、元々紡績工場だったところをリノベーションしてシェアオフィスにしおり、小さい会社が集まり、皆で情報交換しながら面白い仕事をしている。今回はこの辺りも工夫できればと思う。「企業立地」はBでよいか。

【各委員】（異議なし）

№. 532 商工業

【事務局】（質問と回答説明）

【久部会長】 商業は地域で状況が異なるため総合的な評価が難しい。生駒駅周辺は商業施設が多く、ぴっくり通り商店街も空き店舗があまりないが、他の駅前には状況が異なる。近所のスーパーには行かず、足を伸ばして他市のスーパーに買物に行くところもある。これらをどう判断すればよいか悩ましい。「商工業」はBでよいか。

【各委員】（異議なし）

№. 541 観光・交流

【久部会長】 行政の進捗度も審議会の進捗度もBである。「本市の新しい特産品やおみやげ等の開発、PRなど」が最終目標である。前回も楠下委員から、中国からの奈良への観光客を生駒に呼び込む提案があったが、生駒に立ち寄る理由がみつからない。特産品やおみやげの開発は誰が先導しているのか。

【事務局】 商工観光ビジョン策定の際に生駒市商工観光ビジョン懇話会を設置し、そこで特産品についても進めている。竜田川に関連付けてご当地グルメとして「竜田揚げの推進」を決定した。

【久部会長】 他にももっとアイデアがあればよいと思う。

【楠下委員】 生駒にしかないものが、どれだけあるかだと思う。

【久部会長】 茨木市では、茨木の産物を市民が取材してリーフレットを作っている。数年前から、さつまいもを植えて秋に収穫し、それを市内のスイーツショップに持ち込んでケーキの材料にしてもらう取り組みを市民参加型で

行なっている。安威川ダムができることから、最初に3軒くらいに声を掛けて安威川ダムカレーを作ったところ評判を呼び、安威川ダムカレーを出す店が増えている。店によって様々なアイデアが盛り込まれており、安威川ダムカレーのスタンプラリーも行っている。市民も市役所職員も、皆で和気あいあいと楽しみながらいろいろなものを開発するというムードがある。外部から人を呼ぶのではなく、仲間や友達に声を掛けて「茨木市民が、茨木市の中で遊んじゃえ」という考えがあり、それが観光交流につながっている。生駒もそのような考えを増やしてもよい。「食の地産地消」だけでなく「遊びの地産地消」もよいと思う。「観光・交流」はBでよいか。

【各委員】（異議なし）

全体を通して

【久部会長】 次期につなげるためには、産業振興とプロモーション戦略の両輪で考えるのがよい。まじめに産業振興をしようとするが、「楽しくやる」、「おもしろく見せていく」などの戦略があれば、よいことがどんどん広がっていく。近畿大学はその考え方で、ちょっとしたことをいかに面白く発信するかという工夫をしている。

【楠下委員】 今後、地域の拠点開発や高山第2工区の計画など長期的な計画が出てくるため、今のうちに市民に「こんなことをやってほしい」など注文やアイデアを出してもらい、それらも入れ込むことがおもしろいまちづくりにとって大事だと思う。

【久部会長】 茨木のワークショップは「言いつばなし」ではなく、「言い出しっぺがやる」ことになっている。そうやって動ける市民が合わさると、いろいろなものが湧き出してくる。「いこまち宣伝部」がそのやり方を取っており、市民が市の宣伝ビデオを作っているため、そのようなことをもっと増やせばよい。サマーセミナーに関しても、生駒市は、「もっと実行委員会に任せればよいのに」と思うほど、教育委員会が表に出てきていると感じる。協働を増やせば、われわれの分野も違う動き方ができる。昨年の尼崎市のサマーセミナーの記録ビデオで、小学生に「何が面白か

ったか」と聞くと、「水道がどうやってできるかが一番面白かった」と答えている場面がある。水道局の人が汚い水を濾過してきれいな飲み水に変える実験を行なったところ、それがもっとも心に残ったということである。水道局の人もそのような声を聞くと嬉しいと思う。

【中山委員】 水道の水を作るのが大変ということが分かれば、子どもも水を大切にできるようになる。

【久部会長】 子どもはきれいになった水しか見たことがない。浄水場できれいにしていることをうまく伝えてもらった。

【中山委員】 今はそのような見学できないのか。

【事務局】 大きな施設の見学であり、災害時に水を簡易濾過するなどは見れる。

【久部会長】 この辺りでも分野を越えて協働の分野をもっと増やせば面白い展開ができるのではと期待している。

(2) その他

【事務局】 (事務連絡)

【久部会長】 これをもって、第2回生駒市総合計画審議会第二部会を終了します。

— 了 —